

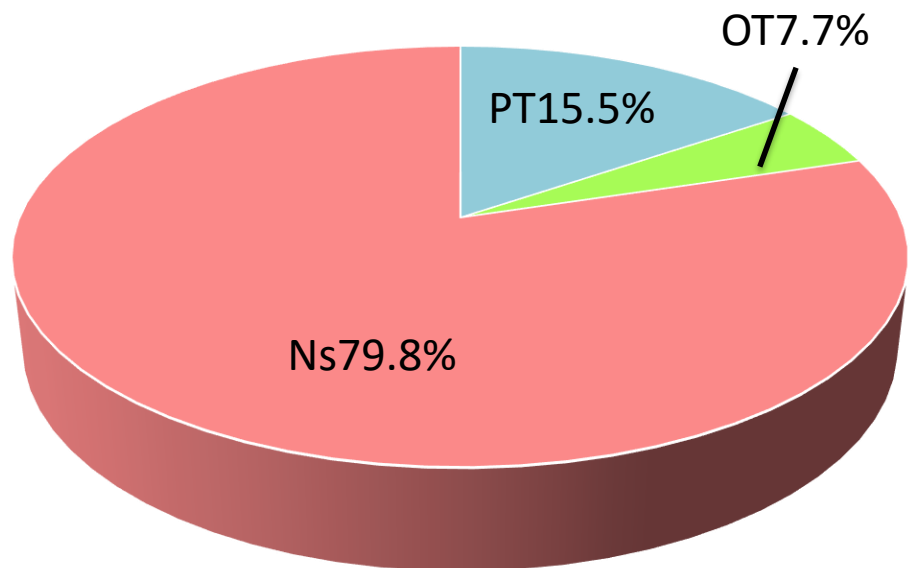
令和3年度学生アンケート

調査期間(2022年1月～2022年3月)

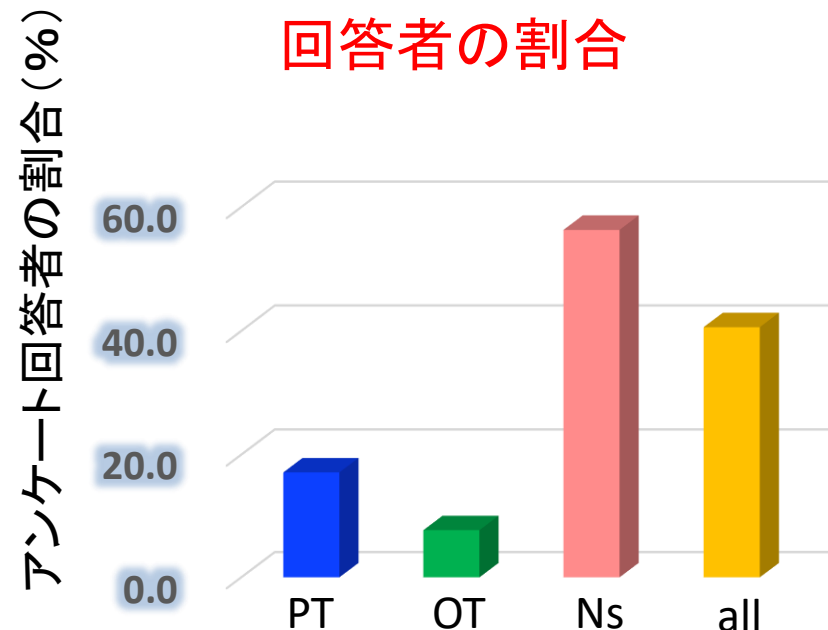
北都保健福祉専門学校

Q1. 学生アンケートの回収

回答者総数に占める
各学科の割合



各学科在席者数に占める
回答者の割合

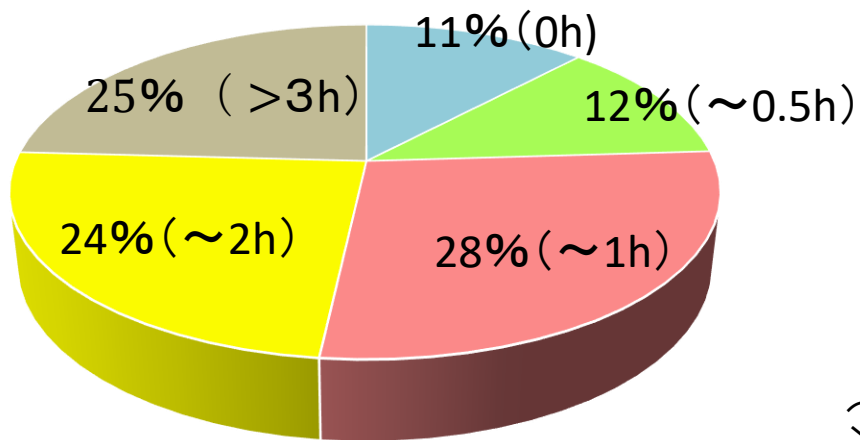


PT:理学療法学科、OT:作業療法学科、Ns:看護学科、all:全学科

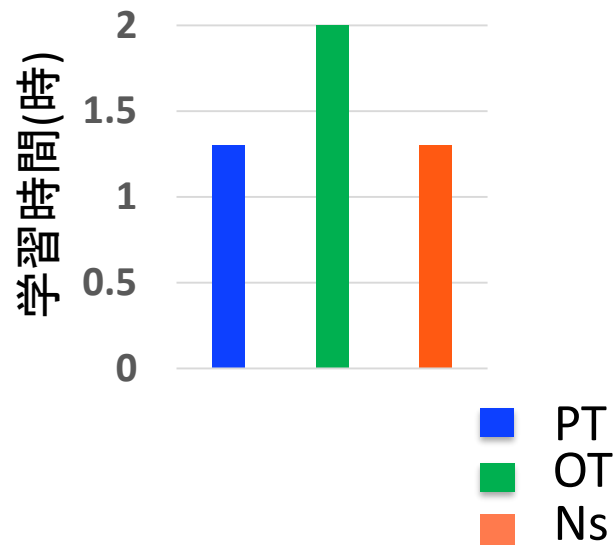
看護学科の回答率は昨年とほぼ同様であったが、理学および作業療法学科で有意に低下した。学校全体では41%前後であり、昨年対比では半減してしまった。この原因は、アンケート期間が臨床実習と重なった、試験期間と重なった、コロナ禍で積極的になれなかった、あるいは、アンケート調査にマンネリ化を感じた、等が考えられる。

Q3. 1日の学習時はどのくらいか

1日当たりの学習時間

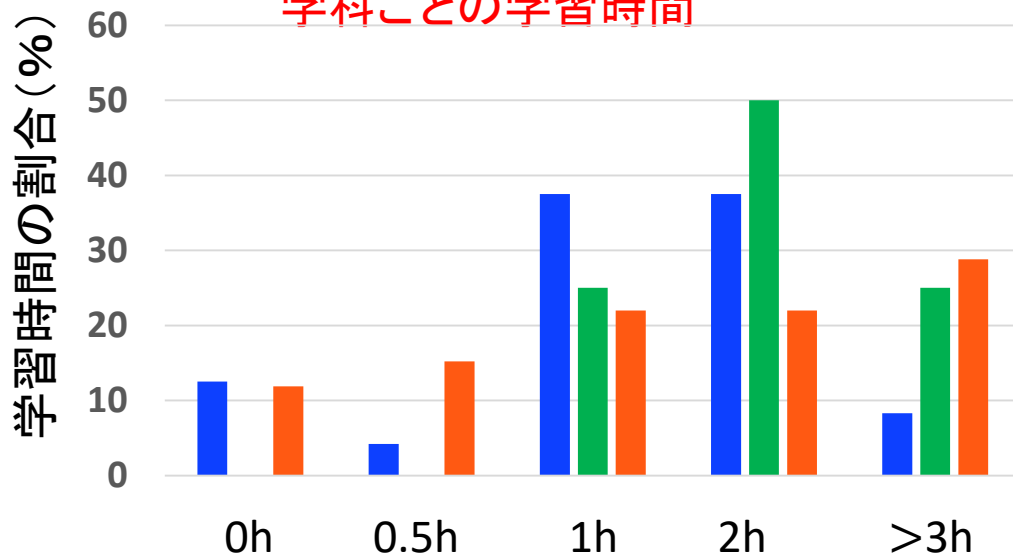


平均学習時間



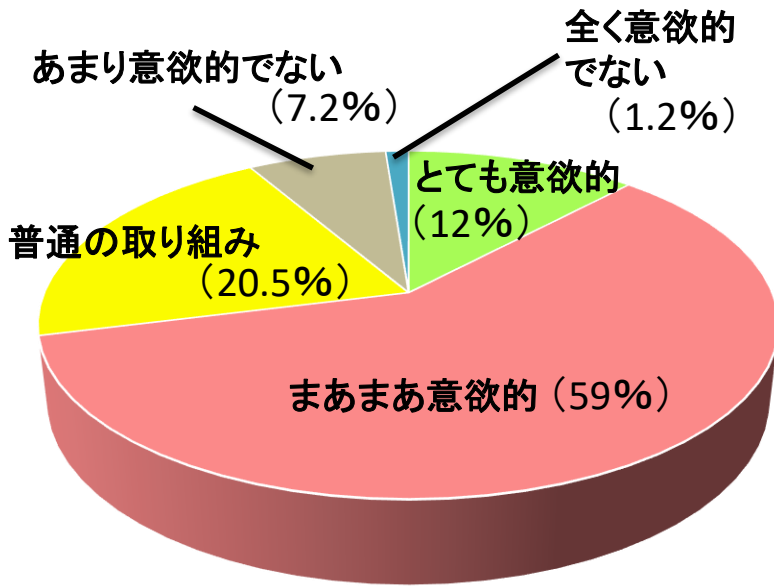
昨年度と比べ、今年度の学習時間は大幅に増加していた。学生一人当たりの平均学習時間は3学科とも約2倍近くであった。全く学習しなかった学生は昨年は30%ほどであったが、今年度は約11%になった。課外活動としての自己学習やグループ学習が好影響をもたらしたと考えられる。

学科ごとの学習時間



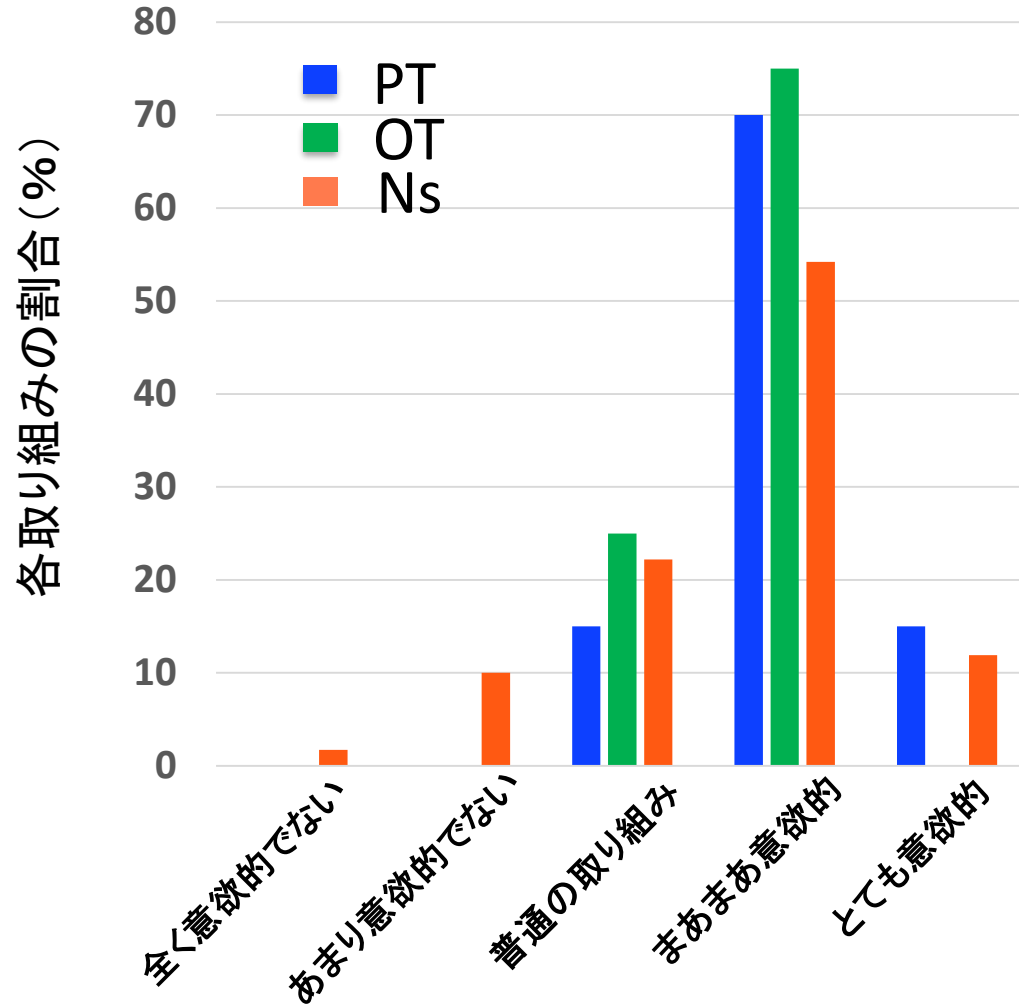
Q4. 授業にどう取り組んでいるか

3学科の合計



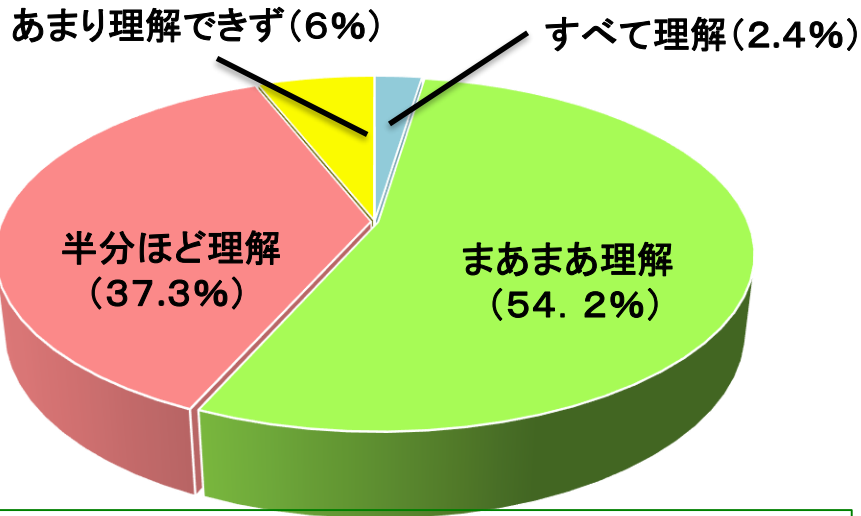
授業に対する取り組みは3学科ともに意欲的な傾向が認められ、概ね良好な状態であると考えられた。ただ、作業療法学科では「とても意欲的」という学生がやや少な目であった。看護学科では、「あまり意欲的でない」や「全く意欲的でない」という学生も12%ほど見受けられた。

学科ごとの授業への取り組み

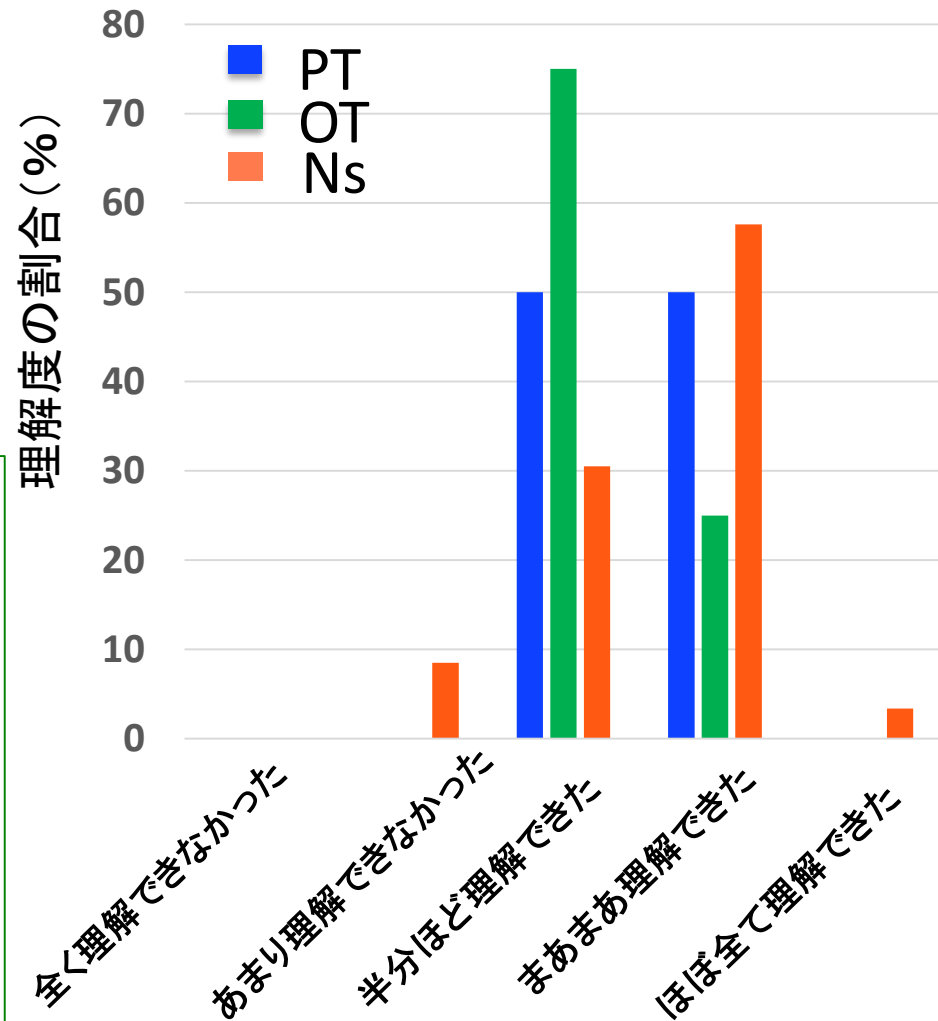


Q5. 授業をどれくらい理解できたか

3学科の合計



学科ごとの理解度の比較

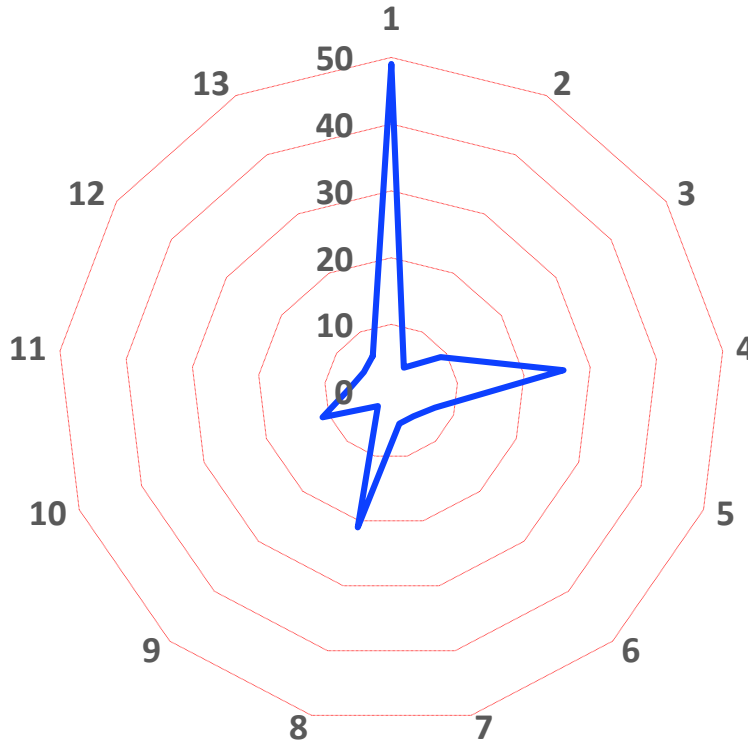


3学科における理解度は多少差異があったが、概ね同じような傾向であった。学校全体では、56.6%の学生が「まあまあ理解できた」と回答しており、「半分以上理解できた」という学生を含めると、94%ほどを占めていた。「あまり理解できなかった」とか「全く理解できなかった」という学生は昨年度は30%ほどであったが、今年度は6%ほどに減少した。これは授業改善や個別指導が功を奏したためと考えられる。今後、より一層の理解が得られる創意工夫を重ねていきたい。

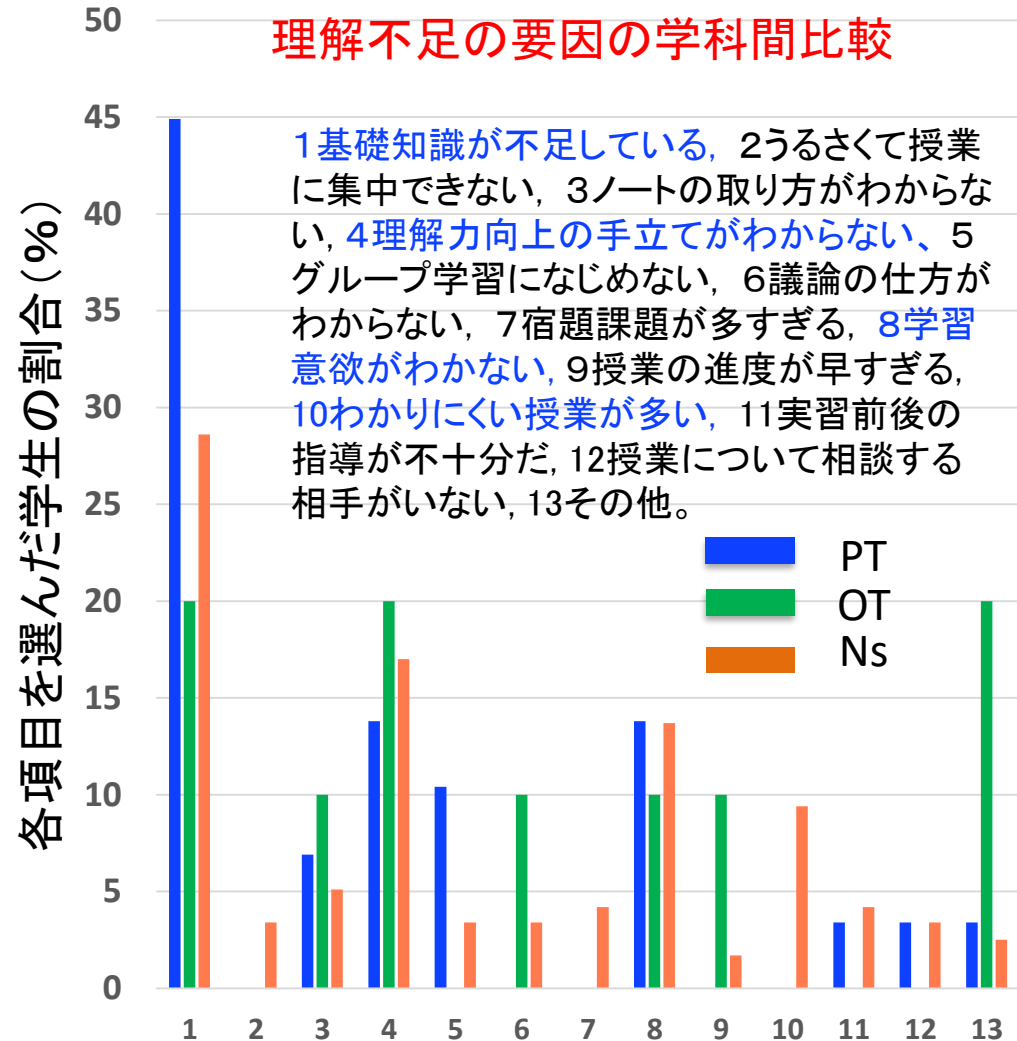
Q6-Q7. 理解不足の要因は何か

回答は複数選択

理解不足の要因



理解不足の要因の学科間比較



1基礎知識が不足している, 2うるさくて授業に集中できない, 3ノートを取り方がわからない, 4理解力向上の手立てがわからない, 5グループ学習になじめない, 6議論の仕方がわからない, 7宿題課題が多すぎる, 8学習意欲がわからない, 9授業の進度が早すぎる, 10わかりにくい授業が多い, 11実習前後の指導が不十分だ, 12授業について相談する相手がいない, 13その他。

■ PT
■ OT
■ Ns

要因1, 4, 8, 10などが理解不足の原因となっていた。「その他」としては、「教員からのフィードバックが不十分である」「非常勤講師による授業内容が膨大であり、負担感を感じている」「実技の時間に教員がずっといない」「グループワークのメンバーに能力差があり困る」「自己満足の講義が多い」「初年次から国試対策や説明が欲しい」などの意見があった。今後速やかに学内で協議して、対策を講じていきたい。

Q8-1. 授業改善に対する学生提案と回答

理学療法学科学生

1) エアコンをつけてほしい。

Ans: 実習室など特に暑さを感じる場所に優先的に設置できるように対応を考えます。それまで、エアコン既設教室の共用をはかっていきます。

2) 再試料を安くしてほしい。

Ans: 本件に関しては昨年度も教員間で話し合いをしていますが、再試料を下げることで再試対象者数の増加が危惧されます。再試の対象者にならないように質問対応を丁寧に行いたいと考えますが、再試料についても今一度検討させていただきます。

看護学科学生

1) 学力別に授業をして欲しい。

Ans: 全てではないにしても、一部の科目でそのような対応は一つのチャレンジであると考えられます。特に、グループ学習での対応はすぐに可能と考えられます。ただ、実習などではグループダイナミクスがうまく働くことを優先しますので、能力別とは異なる発想の学習方法といえます。これらのバランスを考えた授業展開を考えてみるのが興味深い対応と言えます。

2) 問題を投げかけたら、正解まで導いてほしい。

Ans: 問題の投げかけと正解あるいは解答例の開示は通常セットになっています。おそらくどこかのタイミングで明らかにする予定であったと想像されます。是非、皆さんの方から教員に積極的なフィードバックをしてみてください。学生と教員間のキャッチボールは教育効果を高めることが期待できますから。

3) できれば、資料を全授業ほしい。たまに配られない授業があるため。

Ans: そうですね。配付ないしはHPでの学生への公開するように各教員に依頼します。

4) 同じ人ばかり発言してるので(出しゃばりがいる)、先生から名指しするか、挙手制にすると思います。Ans: 確かに、学生からの発言が多い場合、発言者の交通整理が必要ですね。

Q8-2. 授業改善のための学生提案と本校の対応

看護学科(続き)

4) 全ての授業ではありませんが、授業を聞いてメモをとることも大切ですが、受け身になってしまいがちです。覚えることは沢山ありますが、実際の授業を通して、国家試験までに覚えていることは私はほとんどありませんでした。最終的には自己学習が最も大切だと思いますが、せっかく授業をするのなら記憶に残るものが良いと思います。先程も述べましたが、受け身の授業だと、その時は覚えていても、暗記する事やメモをとることに集中してしまい、結局は忘れてしまうことが多かったです。私が授業で良いと感じたのは、淡々と授業を行うのではなく、教員の現場での出来事などを教えて貰えると、興味が湧きました。また、授業で教える際には、図や表を用いた方が理解に繋がると私は思いました。私は新しいことを覚える際にはその都度ミニテストや関連づけた問題を解くと理解しやすかったです。もしも、授業でミニテストを行うならば、その解説もしっかり出来れば良いと思います。よく「ここは国家試験に出るよ」「大事なところだよ」と言われても受験勉強を始めていない人からすればなんの事か想像もつかないのではないのでしょうか。2年生の後半あたりから国試について考える人が多かったのも、もっと早い段階から国試についてのイメージが出来れば、余裕を持って学習に望めると思います。なぜなら、実習が12月中旬までかかり、それに加え卒業研究もあったので本格的に国試に向けての勉強がなかなか集中出来なかったからです。授業は教員だけの責任ではありませんが、生徒の学習意欲を高めるのも仕事だと思います。また、教員のことだけではなく、授業に参加する生徒も責任があると思いますので、教員側の視点からも生徒に改善して欲しい点があれば伝えた方が良いと思います。以前は教員の方が立場が上だと言われ、今では生徒の意見を尊重するようになりましたが、教員も生徒も対等だと思うので。

Ans: 詳細なご意見、ありがとうございます。卒業される学生のスワンソングと感じております。確かに、積極的かつ能動的学習はずっと頭に残りますし、学習効率が極めて高いものです。そのためには、早い段階からしっかりとした学びができるように授業や課外学習を進めて行く必要があると感じます。

Q8-3. 授業改善のための学生提案と本校の対応

現在、1年生担任が全学年対象のLine勉強会を進めていますので、是非、積極的な参加を期待しております。また、お考えの学習法を実現するためにさらなる創意工夫を行って行きますので、今後ともご協力をお願い申し上げます。

5) 学生の声をもっと聞き、自分(教員)本意の授業にならないこと。

Ans:そうですね。教員と学生と話し合いで解決できるように思われますので、本件に関して少しでも授業改善に努めたいと考えます。

6) 講義の終わりにどの程度理解できたかを試す小テストがあるといいと思います。小テストの結果も評価に反映して欲しいと思います。7) 時々小テストをやることで、少しずつ身につくと思います。

Ans:現在、校長を含め複数の教員がそのような小テストを実施しておりますので、全校的な広がりになるように、授業方法の改善に努めたいと考えております。

8) 意欲を持てるような面白くて身近なことに関連させた授業。

Ans:聞き手である皆さんにとって身近に感じられることを切り口とした授業が展開されたり、あるいは、そのようにイメージしやすい具体例を授業で紹介されると、興味や理解が高まることが期待されます。授業改善の方法として共有したい考え方と思います。ご指摘、ありがとうございました。

9) 他学科の先生に教えてもらう。教えてもらった時すごい勉強になった。

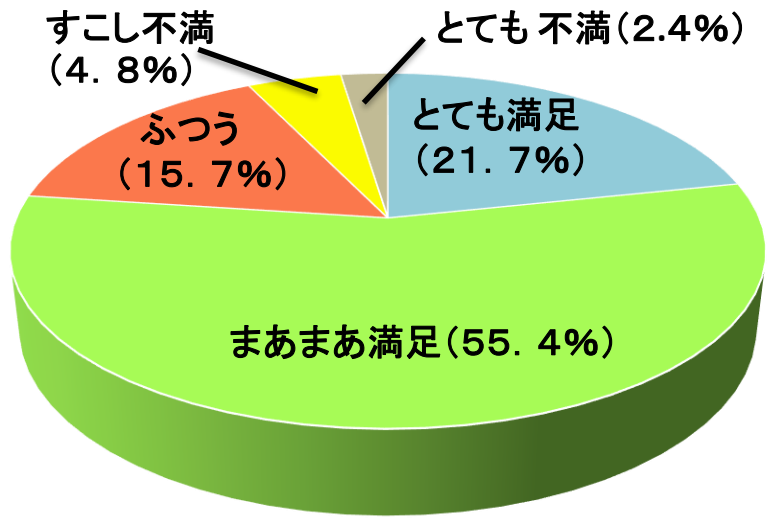
Ans:コロナ禍で3学科交流の機会を増やして行きたいと考えております。学生同士の交流だけでなく、3学科教員を含めた課外活動として合同の学習会や実習などを企画して頂きたいと考えています。

10) 発言できる機会を増やす。

Ans:その通りですね。一方的な講義を傾聴する従来の講義スタイルから、アクティブラーニングを取り入れる学習方法が一般的になっており、学生さんの積極的な発言を引き出す教育方法が望ましいと考えられます。ただ、この学びの基本には予習が前提条件となっていますが、現行のタイトなカリキュラムでは予習時間の確保が一つの問題となっています。

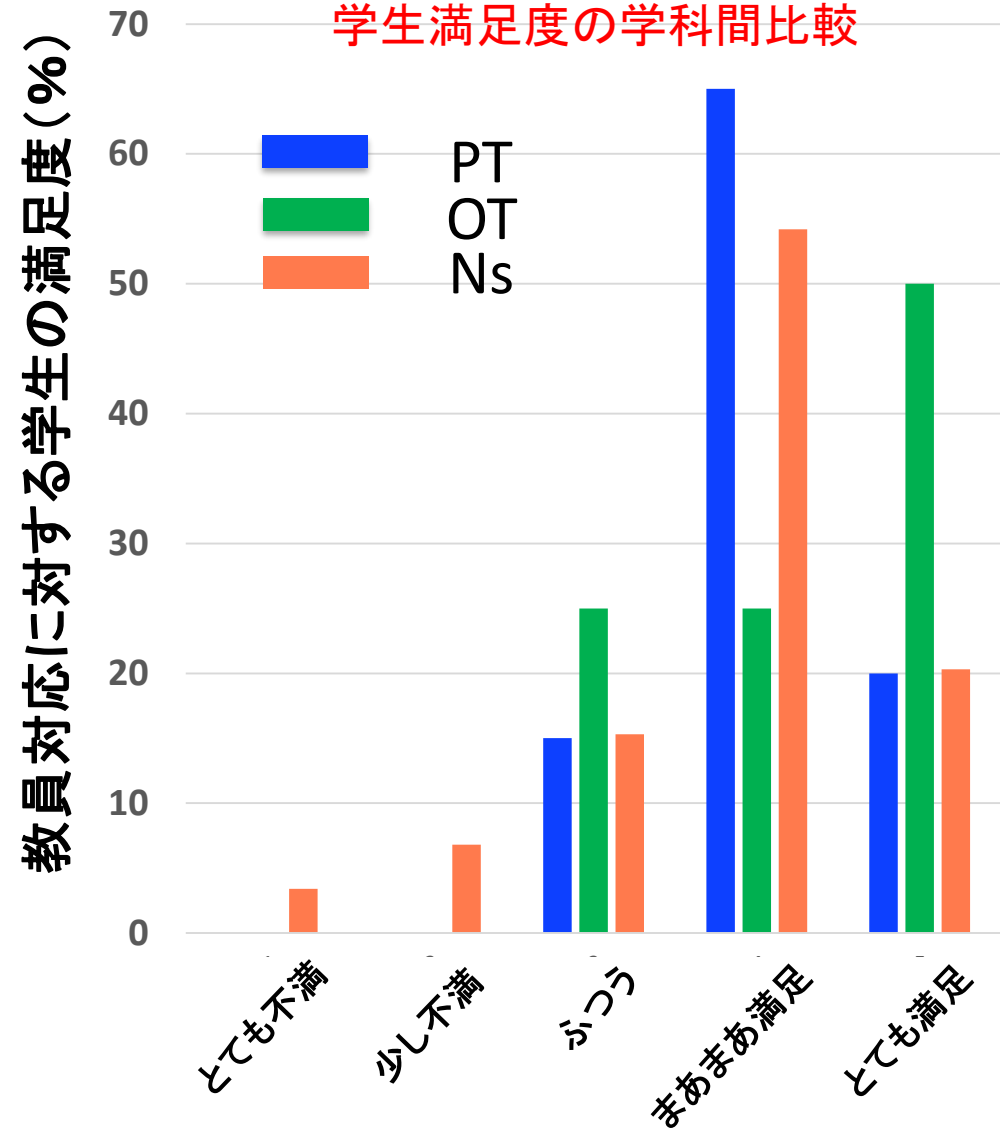
Q9. 本校教員の教育指導法に満足しているか

教員に対する満足度



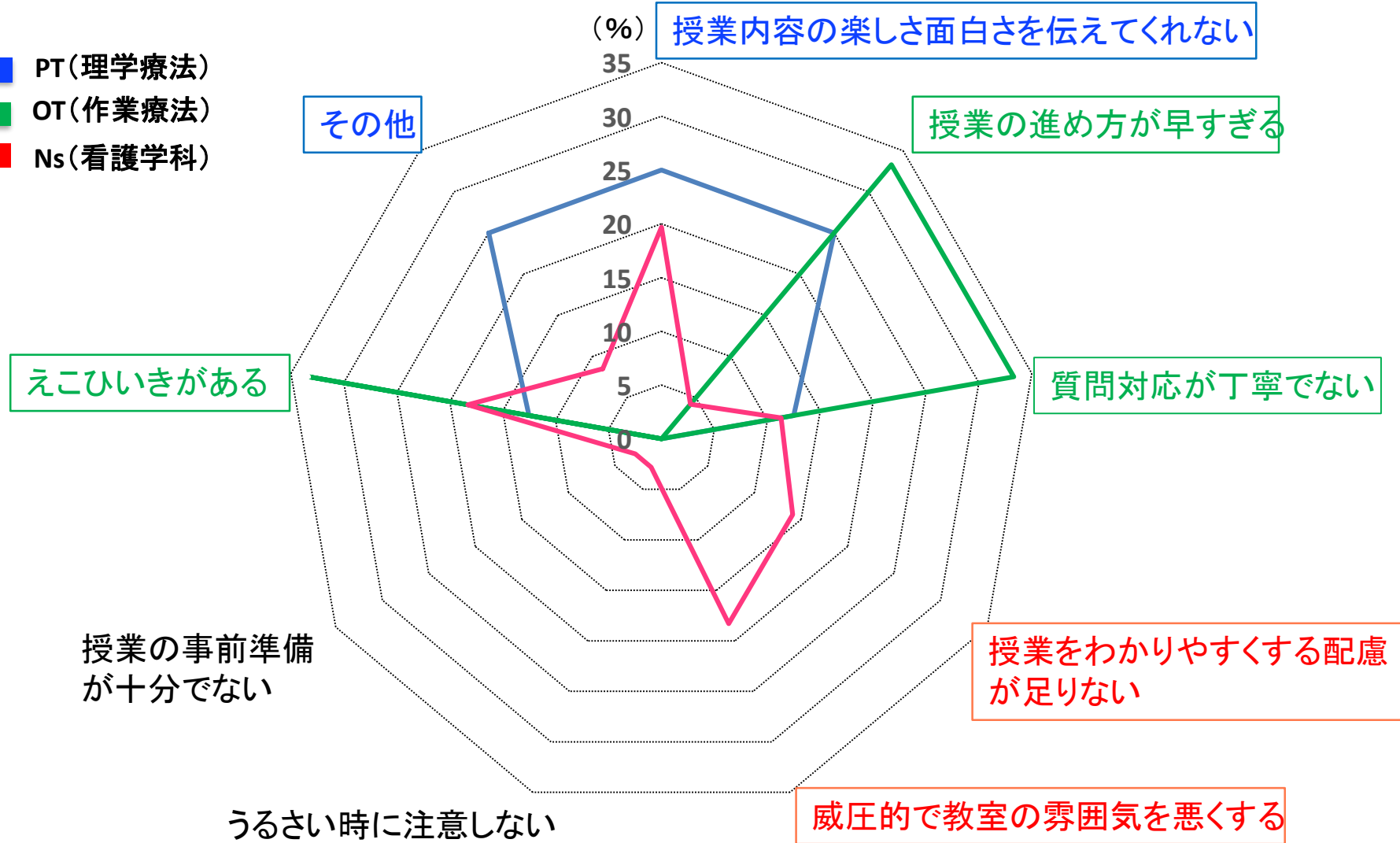
教員の教育指導法に対する学生満足度について昨年度と比べて大きく異なっていた。このことは、看護学科における満足度が大きく改善したことであり、理学や作業療法学科とほぼ同等の評価になってきたからである。全体的に見ても、「ふつう」から「とても満足」という学生は93%ほどになっている。看護学科教員が一丸となって教育や学生対応における改善策を推し進めてきた結果と考えられる。

学生満足度の学科間比較



Q10. 教員対応に感じる不満は何か

- PT(理学療法)
- OT(作業療法)
- Ns(看護学科)



Q10では、Q9の評価に関わらず、少しでも不満があればそれらを回答してもらった。文字の色はその項目を選んだ学生が一番多かった学科の色で表記した。「その他」の詳細な内容はQ11を参照してほしい。

Q11-1. Q10の「その他」の内容と回答

理学療法学科

1) 「Q10の選択項目なし」: 声が聞こえにくい人(教員)がいる。

Ans.: 当該教員にはその旨伝えてあります。ただ、より聞こえやすくするために、音響設備などの調整を含めて丁寧にしていきたいと考えます。

2) 「その他」: 再試料を安くしてほしい。

Ans.: Q8にも同じご要望がありましたので、再度検討をいたします。ただ、合わせて、再試の対象者にならないような方策(たとえば質問コーナーやミニ講義などの補習)を進めたいと考えております。

作業療法学科: 具体的なコメント記載がありませんでした。

看護学科

1) 「威圧的であり教室の雰囲気悪くする」「授業中うるさくなくても注意しない」: 着地点がなく、指導なのか教育なのか理解しきれぬ時がある。

Ans.: 当該教員に伝えます。時として、熱血教員の熱意が空回りしてしまうことがあるようにも感じます。教室の雰囲気は大切な教育環境の一つですので、より積極的な学びができるように工夫を重ねていきと考えております。

2) 「その他」: わからないことがあって聞きやすい人(教員)と聞きにくい人がある。威圧的な感じだと質問したいことがあっても質問できない。

Ans.: 前のコメントと関連している内容ですが、やはりリラックスしながら集中して授業を受ける環境が望ましいと考えられます。威圧的な環境下では質問にも萎縮してしまい、スムーズに内容の理解が進まない状況も起こり得ます。また、質問に関しては、教わっている教員だけでなく、他の教員や他学科の教員にも気軽に質問できる体制を整えていきたいと考えています。

Q11-2. Q10の「その他」の内容と回答

看護学科

3) 「威圧的であり教室の雰囲気悪くする」: 9:00から授業開始で8:30に学校に来て先生への報告や体温のチェックしている人がいるのに、テストに遅れて来た人に対して遅刻ではなく、通常通りにテストを受けさせるのは正直見ている疑問に思った。

Ans.: 本校の履修規定では、20分以上遅刻はその試験を受験することができないと明記されています。また、遅れたからと言って試験時間の延長はありませんので、試験に遅れるとその時間だけ本人には不利になります。

4) 「その他」: 教師と生徒の意欲が一致していない。

Ans.: 全体のアンケート結果を見ると、皆さんの学習時間が増えており、望ましいことと感じます。ただ、教員から見れば、まだ十分ではないと思える学生もいます。教員は情熱を持って教育にあたっていますが、皆さん一人ひとりのモチベーションがUpするように配慮していきたいと考えます。お気づきのことがありましたら、いつでもご意見をお聞かせ下さい。

5) 「えこひいきする」とか「その他」: (そんな)教員の講義にお金を払いたくないです。

Ans.: Q11の意見にありましたように、「教員がえこひいきしている」という具体的コメントが複数記載されていることには申し訳なく感じております。基本的には、皆さん全員に公平な教育的対応をすべきと考えております。今後は誤解のないように徹底したいと考えています。

6) 「その他」: わかりやすい先生とわかりにくい先生がいる。

Ans.: 教員としてのこれまでの経験で培われた話し方で授業を進めてしまう傾向はありますが、基本的にはわかりやすさも教員にとっての目標となっています。今年度から本格的に「学生による授業評価」を実施しておりますので、是非、忌憚のない意見や建設的な意見を通じて教員にフィードバックして下さい。それらによって各教員が授業改善を心がけて行くと期待されます。また、学校として教育改善に取り組む啓発セミナー等も計画していきたいと考えています。

Q12. 授業に対する 学生提案と回答

理学療法学科

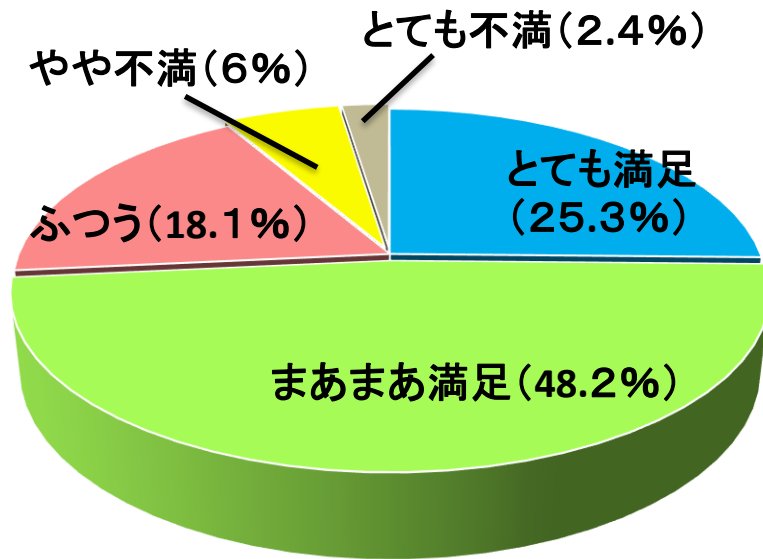
- 1) 「**授業が早すぎる**」**学生提案**: 口頭でいう内容もスライドに書いて欲しいです。**Ans**: わかり易い授業として改善をはかります。
- 2) 「**再試料が高い**」**学生提案**: 再試料を安くして欲しい。**Ans**: 再検討させていただきます。

看護学科

- 3) 「**着地点がなく、指導なのか教育なのか理解しかねる時がある**」
学生提案: 教員が感情を表に出さなければ、学生ともっと良い信頼関係が結べるのではないかと。また、学生同士で解決できない問題には教員の介入を期待する。**Ans**: 承知いたしました。
- 4) 「**えこひいきすることがある・質問対応が丁寧でない**」
学生提案: 教員と学生の立場の違いを利用して、自分(教員)の欲求を満たしているのだから、自分本位の授業にしないこと。**Ans**: 学生目線に合わせた授業にして行くべきと考えます。
- 5) 「**えこひいきするそんな教員の講義にお金を払いたくないです**」
学生提案: えこひいきがあり、教員としての態度が悪い。とても気分が悪くなる。
Ans: そのような不快感のない授業に改善したいと考えます。
- 6) 「**授業の楽しさ面白さを伝えてくれない**」
学生提案: 否定から入らない方が良い。学生の良いところは良いと認めて欲しい。
Ans: 学生一人ひとりの意欲を高める教育にしていきたいと考えます。
- 7) 「**授業をわかりやすくして欲しい/授業内容の楽しさを教えて欲しい**」
学生提案: 先生の笑顔が増えて1~2年生の頃と比べ、関わりやすく感じている。
Ans: 高評価に感謝です。
- 8) 「**質問対応が丁寧でない/威圧的であり雰囲気損ねる/えこひいきする**」
学生提案: 全員に対して平等に接して欲しい。学生一人ひとりを見て欲しい。表面ではなく、中身を見て欲しい。**Ans**: 平等公平に接することは教育の基本と考え、対応を見直します。

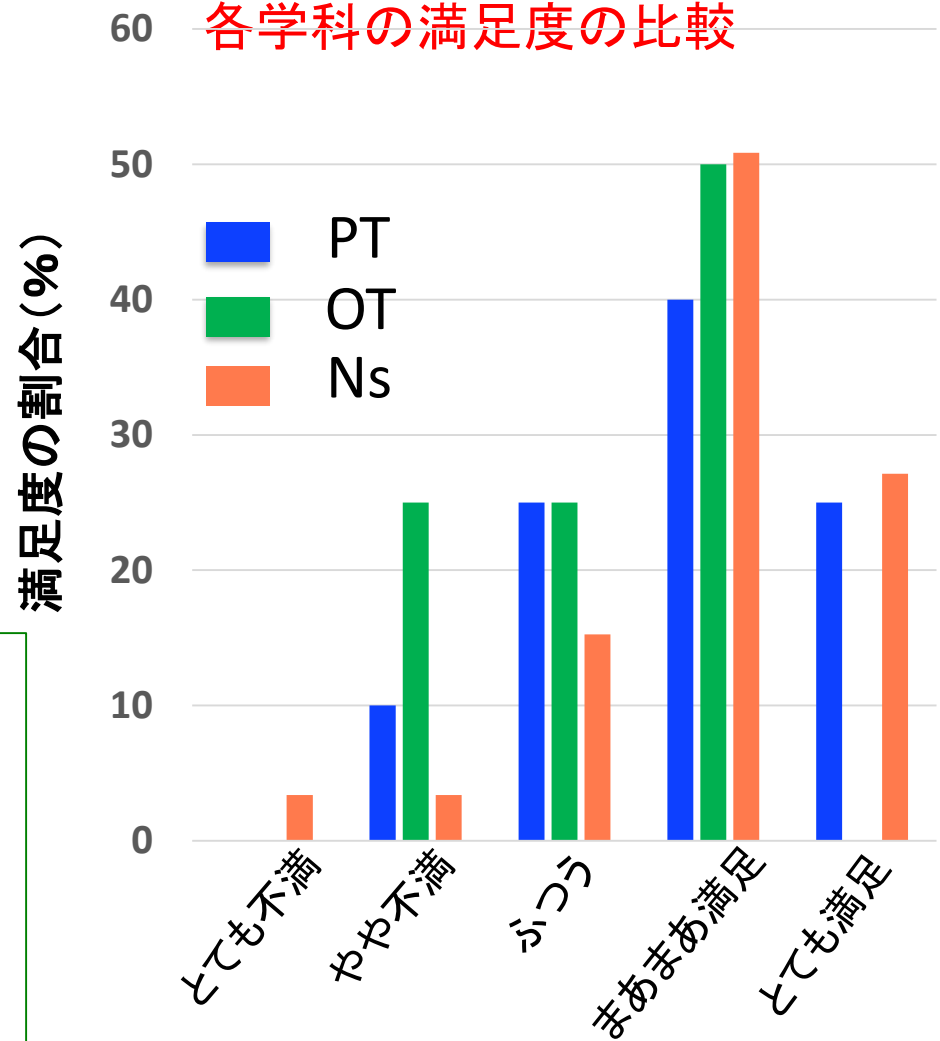
Q13. 本校の学習環境に満足しているか

学習環境に対する満足度

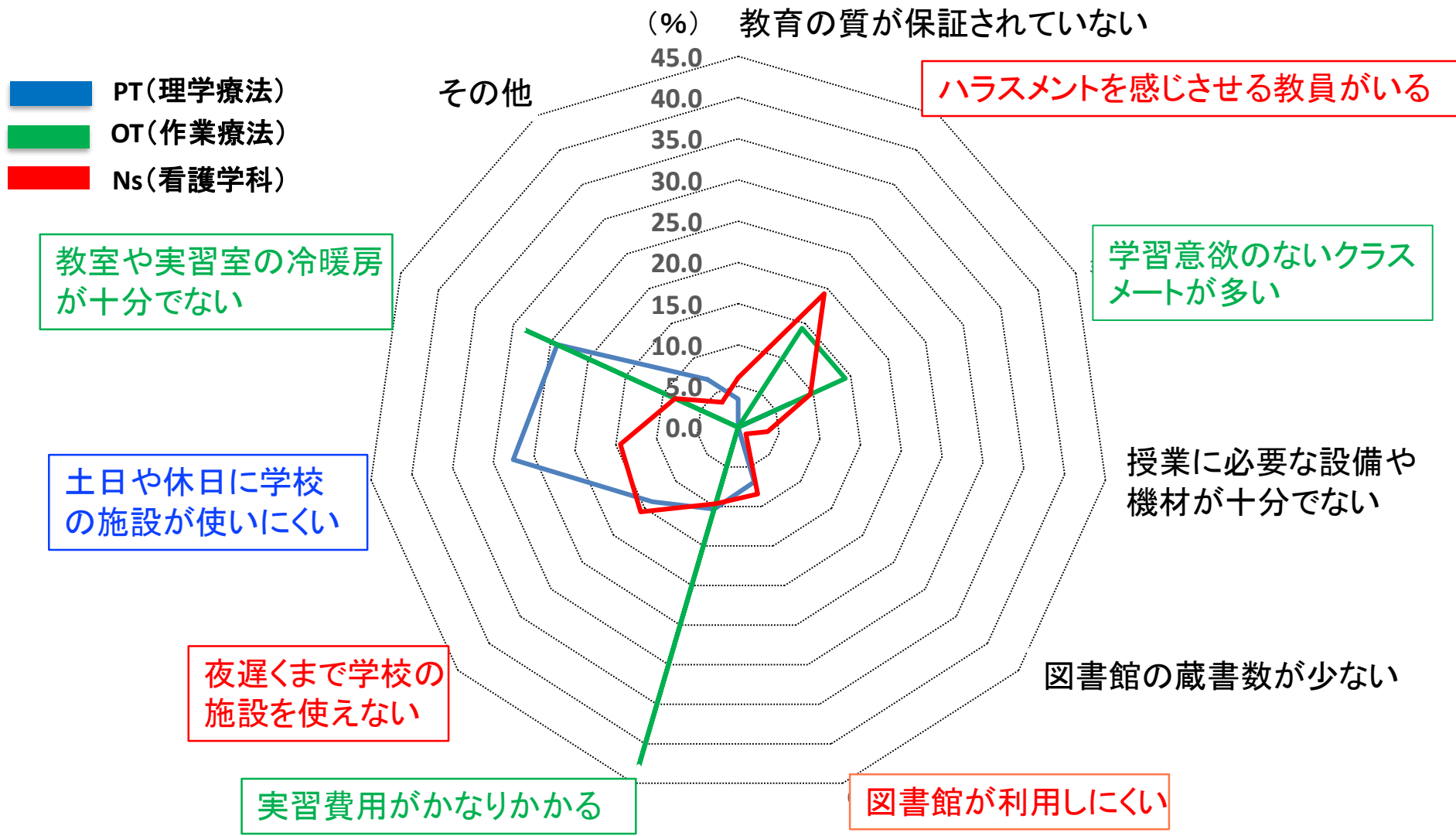


昨年度との対比では、作業療法学科で「やや不満」が増えていた。全校的には「とても満足」が増えて、「やや不満」が減少した。このことから、毎年計画的に学習環境を改善してきたことが成果となって現れていると考えられた。教員による学生対応というソフト面での改善も学生の満足度upにつながっていると考えられる。

各学科の満足度の比較



Q14. 学習環境に対する不満は何か



Q14では、Q13の評価に関わらず、少しでも不満があればそれらを回答してもらった。文字の色はその項目を選んだ学生が一番多かった学科の色で表記した。枠のない黒字の記載は不満の原因になっていないと考えられた。

Q15. Q14で「その他」などを選んだ理由と回答

理学療法学科

1)「再試代が高いから」「再試料を安くしてほしい」

Ans.: この件についてはQ8およびQ11などでも要望や意見として上がっておりますので、さらに検討してまいりたいと存じます。

作業療法学科

具体的コメント記載がありませんでした。

看護学科

1)「教員が多忙で少ないと思う」

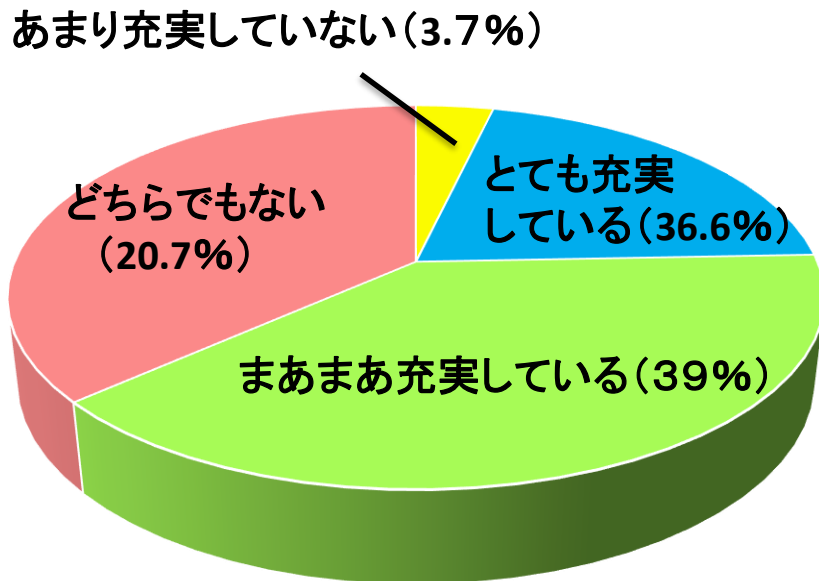
Ans.: 現在、受講中の教員を含めると、専任教員数としては規定数をほぼ確保しつつあります。問題は、学外実習が始まると多くの教員が学外実習に出てしまい、校内で授業を受けている学年に対する個別対応が手薄となる事態が懸念されます。看護学科では、副校長に加え、教員1名を学校勤務とすることで対応をしております。学生からの質問対応には他学科教員もサポートするシステムを作り上げつつありますので、遠慮なく気軽に質問に来て下さい。

2)「模試や国試対策を1年生からしてほしい」

Ans.: 希望者への対応は可能ですので、担任にご相談下さい。また、1年生の担任がLINEによる勉強会を毎夜実施しております。そのやりとりをフォローするだけでも国試の勉強に繋がる基礎力強化になると考えられます。勿論、ご自分で国試対策問題集の学習はできますので、質問や疑問がある時には、看護学科の教員のみならず他学科の教員にもお尋ね下さい。基礎医学的などところは、本校の多くの教員が対応できます。皆さんの積極的な学びと質問を歓迎いたします。

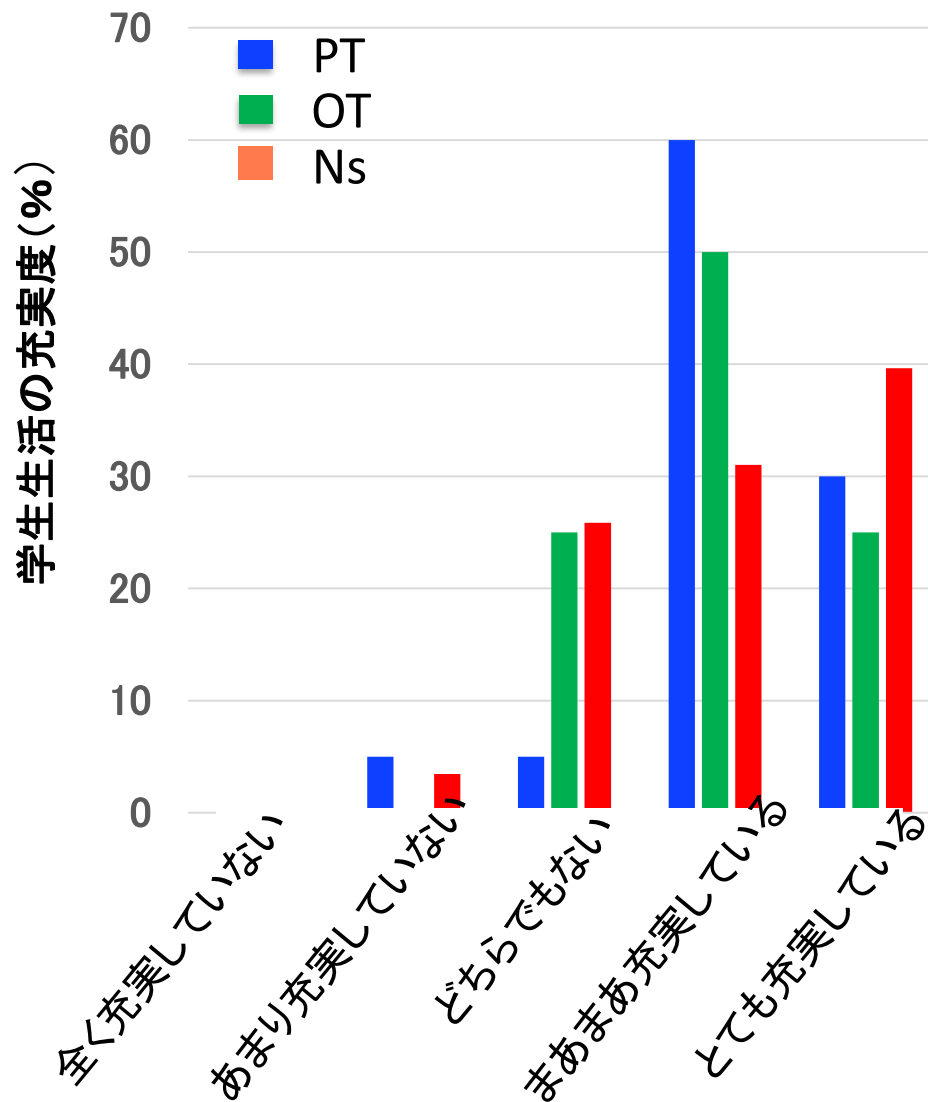
Q16. 学生生活は充実しているか

学生生活の充実度



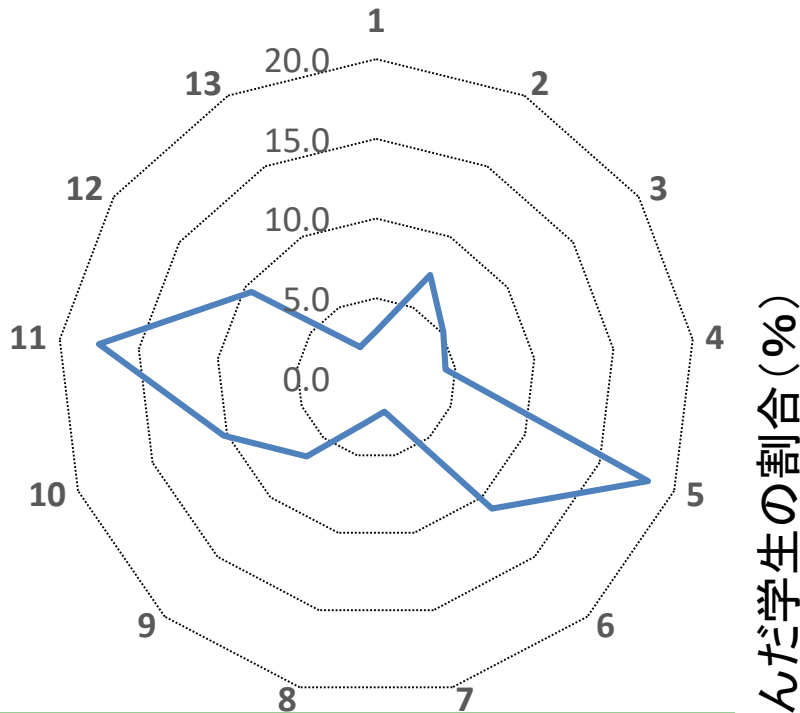
昨年度と比較すると、「全く充実していない」や「あまり充実していない」が減少して、その分「どちらでもない」が増えていた。そのため、3学科の比較で全く差異がなくなっている。看護学科で「とても充実している」の割合が顕著に増加しているためと考えられるが、望ましい結果となっている。

学生生活充実度の学科間比較



Q17. 学生生活が充実していない要因は何か

理解不足の要因

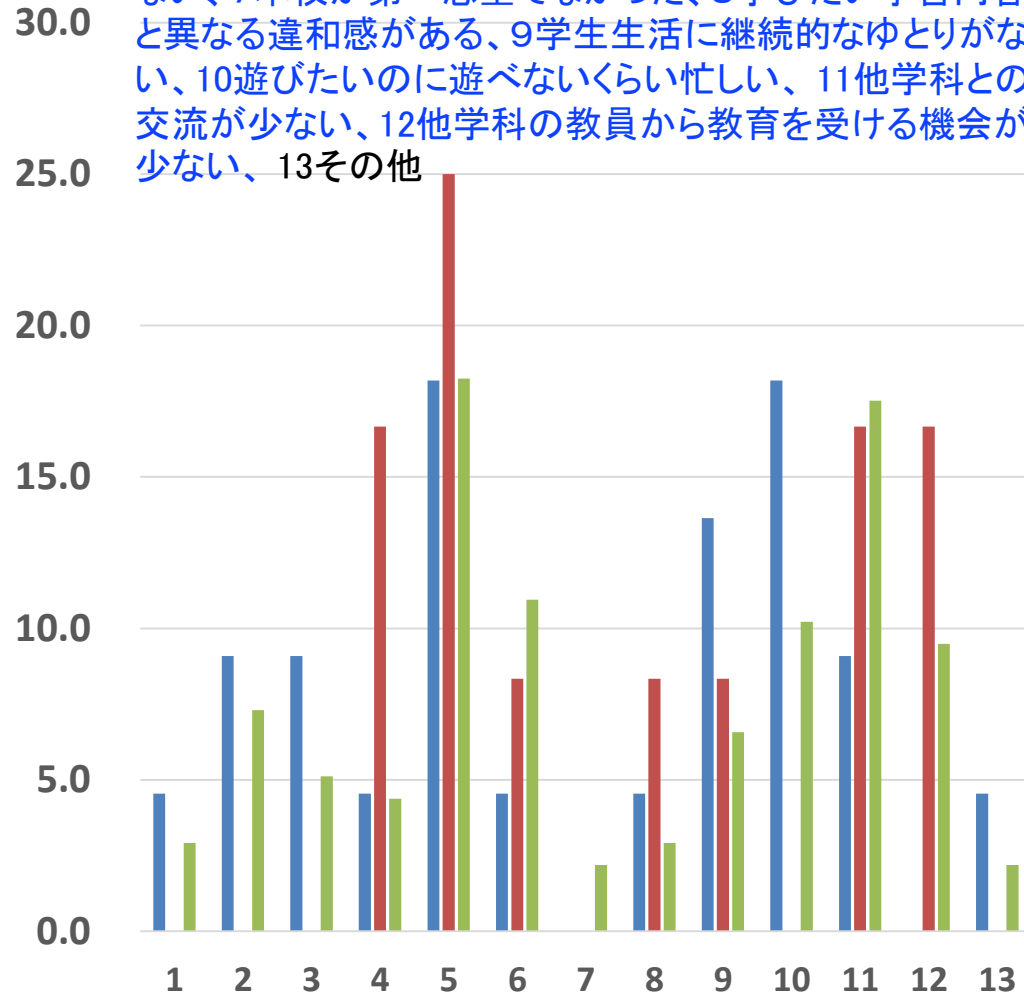


要因5と11の「授業が難しく理解できない」と「他学科との交流がうまくできない」が充実感不足の原因となっていた。さらに、6、10、12の「学習に意欲的になれない」「忙しくて遊べない」「他学科教員から教育を受けられない」が不満となっている。学科別で見ると、4と9の「課題などが多すぎる」「学校生活にゆとりがない」と言った点が目立つところである。

学科間の理解不足の要因の比較

1アルバイトがあまりできない、2交友関係が築けていない、3サークル活動が十分できない、4課題やサポートが多すぎる、5授業が理解できない、6学習に意欲的になれない、7本校が第一志望でなかった、8学びたい学習内容と異なる違和感がある、9学生生活に継続的なゆとりがない、10遊びたいのに遊べないくらい忙しい、11他学科との交流が少ない、12他学科の教員から教育を受ける機会が少ない、13その他

各項目を選んだ学生の割合 (%)



Q18. Q17の「その他」の内容と回答

理学療法学科

1) 「再試代が高い」

Ans.: ありがとうございます。本件についてはQ8、Q11、Q15などでもご意見として上がっておりますので、重ねて検討してまいりたいと考えております。

作業療法学科

コメントの記載がありませんでした。

看護学科

1) 「自分たちが演習とか授業とか全然できていないことはわかっているけど、先生に威圧的な人がいたり、遠回しに嫌味みたく行ったりされるとやる気がなくなる」

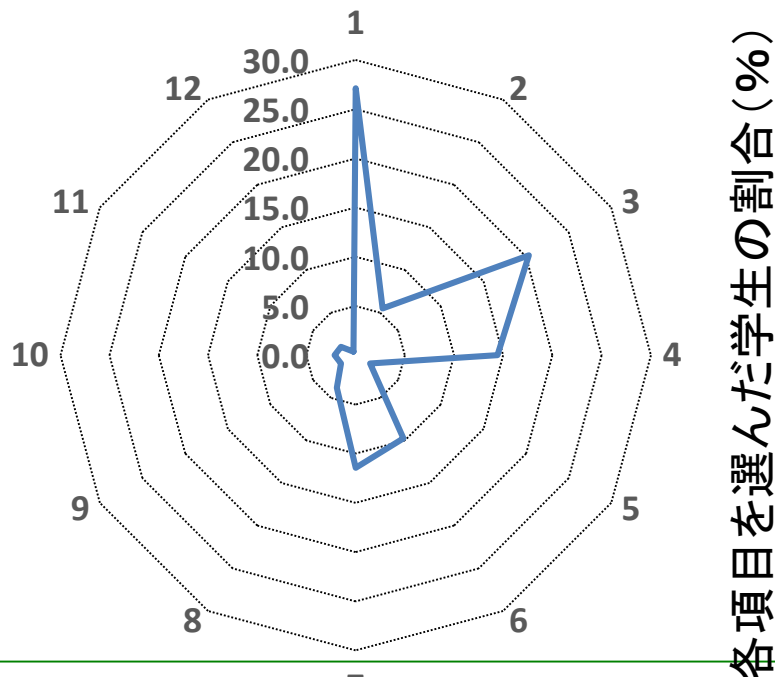
Ans.: 臨床の現場を知る教員が学生の皆さんに期待すればするほど、臨床現場での厳しさを体験してもらいたいとか、それらに慣れて頑張ってもらいたいと願っています。そのため、厳しさが前面に出てしまい、学生の皆さんからは「威圧的」とか「遠回しの嫌味」と受け取られると推察致しております。もう少し、互いに理解しあえる対応を心がけたいと思います。なぜなら、私たち教職員は学生の皆さんが目標達成することを心から願っておりますので、ともに頑張っていける環境作りを考えながら、皆さんの学習意欲向上をはかるサポートをしていきたいと思っております。

2) 「気の合う良い友達に恵まれ、学校生活がとても楽しかったから」

Ans: とても良い出会いになったことと思われまます。今後も、それぞれの医療機関でも良い友人となれる人々との出会いがあることを期待しております。そして、是非、ネットワークを広げていって下さい。

Q19-20. 誰が精神的なサポートをしてくれるか

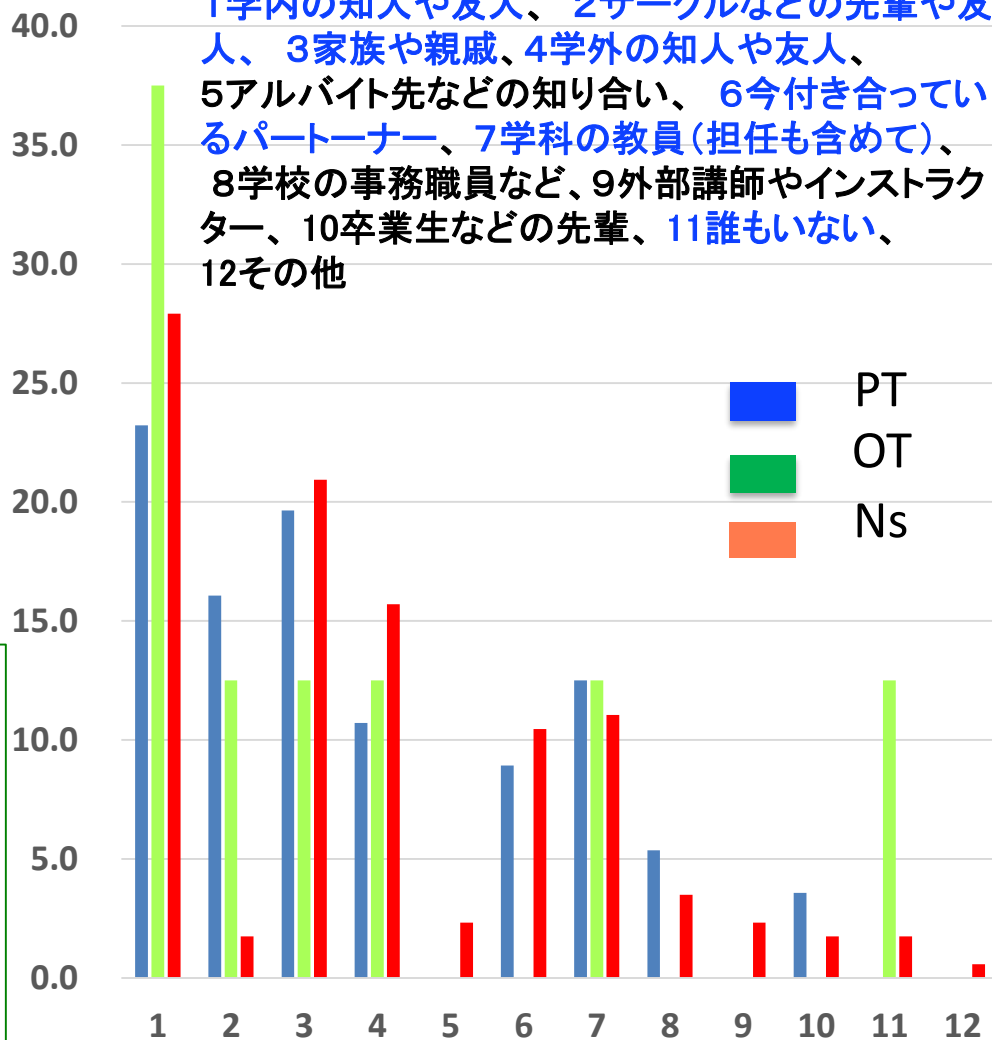
精神的なサポーターになれる存在



全校的には、1、3、4、6、7の「学校内の友人や知人」「家族や親戚」「付き合っているパートナー」および「学科の教員」などが頼れる存在と考えられる。学科別に見ると、理学と作業療法学科では2の「サークル関係者」に相談することがあったようだ。ただ、作業療法学科では11の「誰もいない」と応えた学生がいたので、何らかの対応が必要とされる。

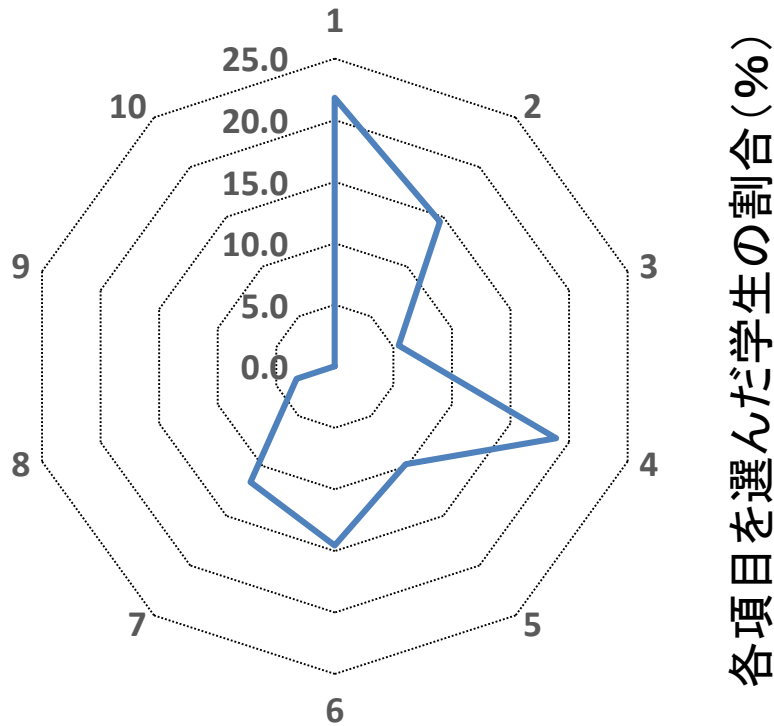
精神的なサポーターの学科間の比較

1学内の知人や友人、2サークルなどの先輩や友人、3家族や親戚、4学外の知人や友人、5アルバイト先などの知り合い、6今付き合っているパートナー、7学科の教員(担任も含めて)、8学校の事務職員など、9外部講師やインストラクター、10卒業生などの先輩、11誰もいない、12その他



Q21-22. 休日はどのように過ごしているか

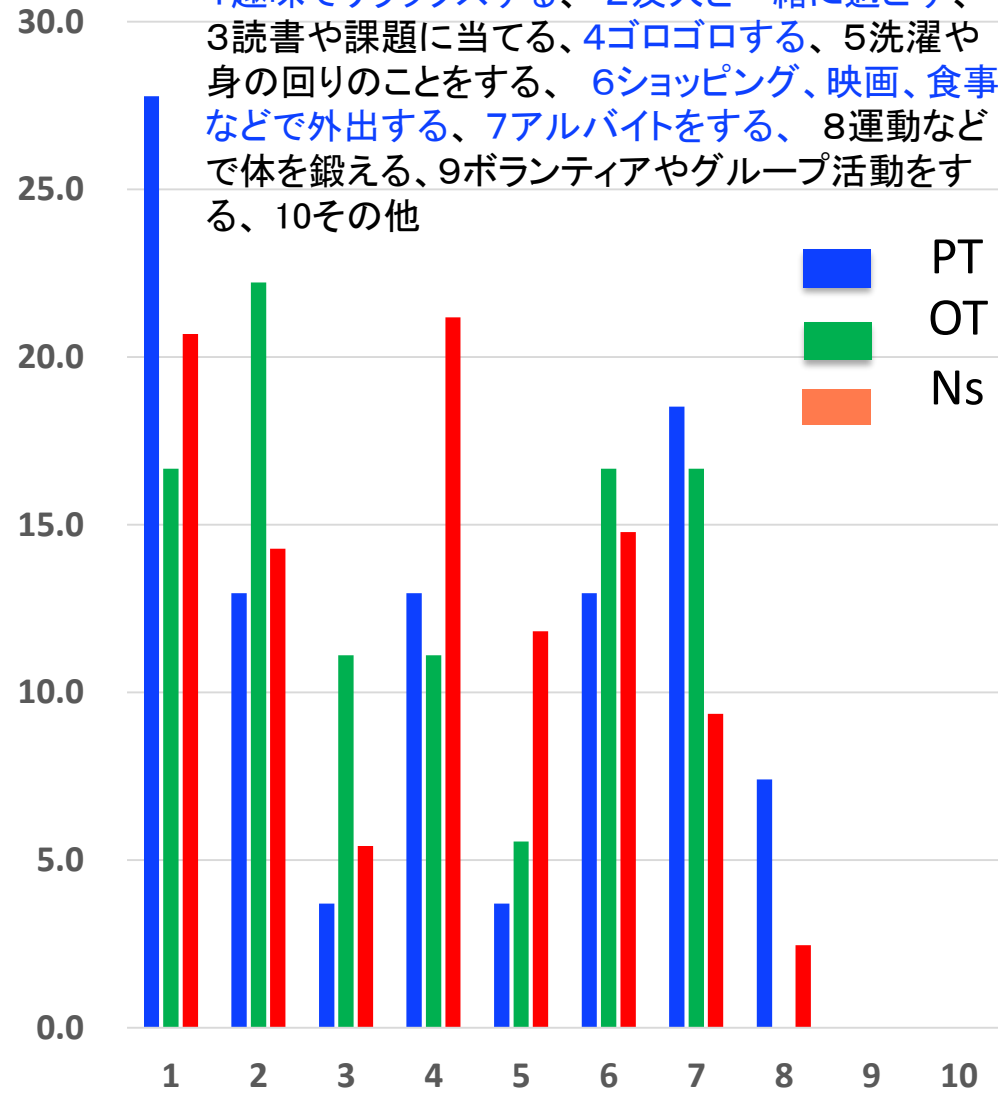
休日の主な過ごし方



全校的には、1、2、4、6、7の「趣味などでリラックスする」「友人と過ごす」「ゴロゴロする」「ショッピング、映画、食事などで外出する」および「アルバイトをする」などが主な休日の過ごし方であった。学科の差異は、それほど大きくないように思える。

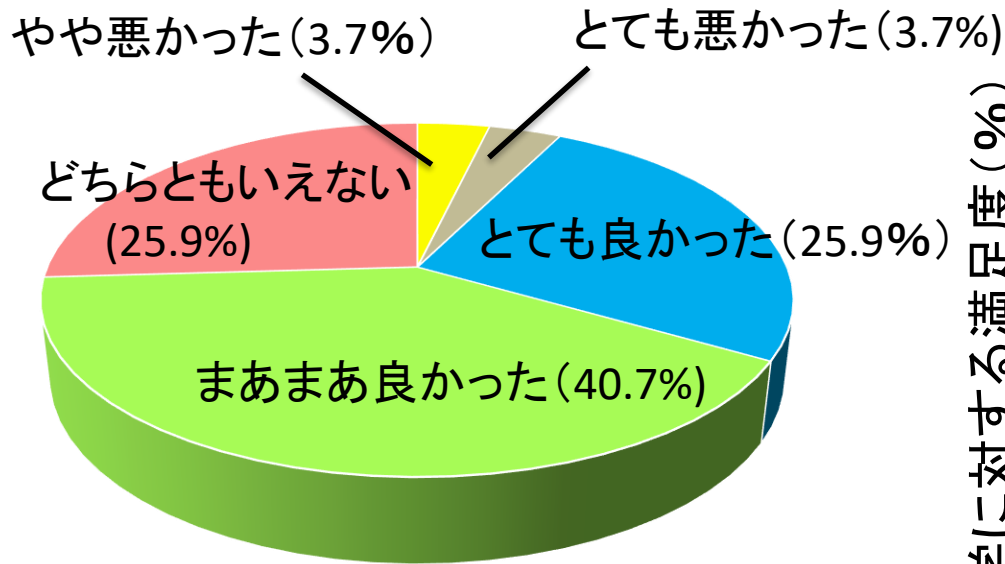
休日の過ごし方における学科間の比較

1趣味でリラックスする、2友人と一緒に過ごす、3読書や課題に当てる、4ゴロゴロする、5洗濯や身の回りのことをする、6ショッピング、映画、食事などで外出する、7アルバイトをする、8運動などで体を鍛える、9ボランティアやグループ活動をする、10その他



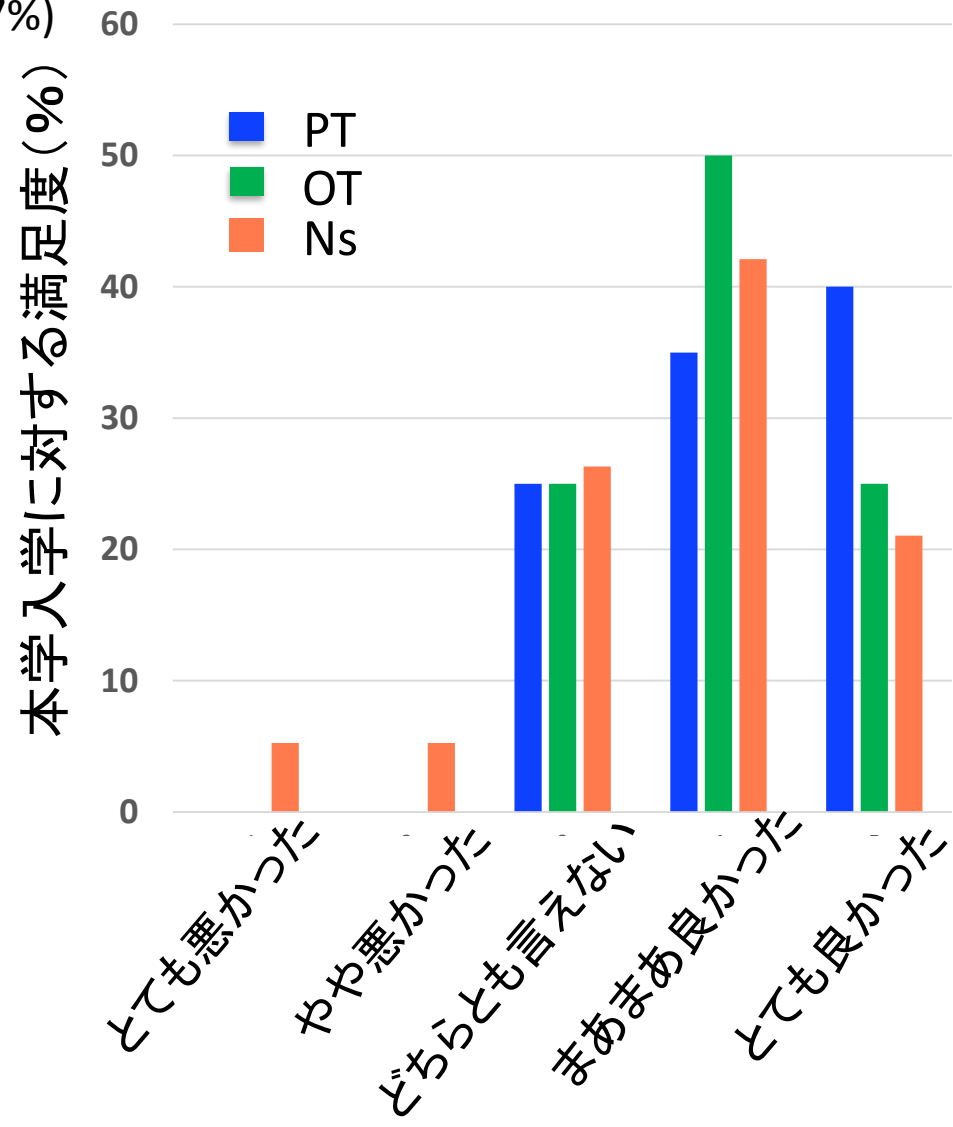
Q23.本校に入学してよかったと思うか

入学の満足度



本校入学後の学生満足度は昨年度と比べてそれほど大きな変化はなかった。しかし、66%ほどの学生が良かったという肯定的な感想を持っていることはありがたい。ただ、悪かったという学生は7.4%ほどであり、そのような学生が考える不満点を解消する方策が今後の課題といえる。

入学満足度の学科間の比較



Q24-1. Q23の満足度判断理由は何か

理学療法学科

1) Q23「とても良かった」

Q24学生の理由: 先生や事務の方がとても良いから。

Q24学生の理由: 自分で決めた道なので後悔はしていません。

Q24学生の理由: 目標がなく、勉強をする意欲がなかったが、最後に人生で勉強する機会を与えて貰えた(ありがたかった)。

2) Q23「まあまあ良かった」

Q24学生の理由: 後悔はしていないが、再試料を安くしてほしい。

Q24学生の理由: 理学療法学科2年生の授業は内科学や神経内科学などで薬剤についての内容や看護に関する授業が多く、授業についていくことに難しさを感じることも多々ありましたが、先生の言葉をモチベーションに頑張ろうと前に進む行動ができるよう私自身少しずつではあるけれど、成長できているのではないかと感じたから。

3) Q23「どちらとも言えない」

Q24学生の理由: 本当にやりたいことなのかどうかわからないから。

Q24学生の理由: 後悔はしていないが、他に興味があった分野に進みたかったと思う時が何度かあったから。

作業療法学科

1) Q23「とても良かった」

Q24学生の理由: クラスメイトや担任の先生、先輩後輩に恵まれたから。少人数であることが自分にとって過ごしやすい環境であったと思います。勉強は大変ですが、周りが一生涯懸命取り組んでいる姿が自分の励みになっているからです。

Q24-2. Q23の満足度判断理由は何か

作業療法学科(続き)

2) Q23「まあまあ良かった」

Q24 学生の理由: 仲間に会えたから。

3) Q23「どちらとも言えない」

Q24 学生の理由: 評判が悪いことを知っていたらここには入ってこなかった。学費は何もかも高い。

看護学科

1) Q23「とても良かった」

Q24 学生の理由: 他校と比べて表現の仕方が悪いかもしれないが「ゆるい」から。私は頭が悪くて自信がないまま入学したが、そんな自分にも1年生の時の担任の先生が分け隔てなく接してくれたお陰で1年半が経った今も目標が変わらずにいられるのは、この学校がサポートしてくれているおかげだと思っている。

Q24 学生の理由: 社会人入学が多く、様々な人と仲良くなれた。教員も良い人ばかりであり、良好な環境下で学習できた。

Q24 学生の理由: 国家試験対策を教員が熱心に行ってくれた。理解が以前より格段に深まった。

Q24 学生の理由: 先生も優しく接してくれて仲間とも切磋琢磨して頑張ることが出来たので北都に来てよかった。

Q24 学生の理由: 他の学校なら卒業まで来れてないと思われる。

Q24 学生の理由: 優しい先生方がたくさんいるため、何とか頑張れる。実習インストラクターや外部講師の方、先生方は頑張っていたりちゃんとできている部分をとても褒めてくださるので、モチベーションが上がる。

Q24-3. Q23の満足度判断理由は何か

看護学科

7) Q23「とても良かった」

Q24学生の理由: 目に見えて校内の学習環境、教員の質が向上していると感じたから。

Q24学生の理由: コロナ禍で実習が少なかったけど、患者さんの笑顔や元気になっていく姿を見て、看護師を目指して良かったと思えたから。

Q24学生の理由: 毎日楽しく、充実していた。

Q24学生の理由: 担任の先生が熱心に国試対策をしてくれたこと。他学科の先生に教えてもらうことで理解出来た。たくさん友達できた。

Q24学生の理由: この学校、このクラスでなければ卒業できてないと思う。

Q24学生の理由: チームで学ぶことを学べた。コロナ禍でも、できる限りのことをやってくれた!

Q24学生の理由: 先生方が親身に話を聞いてくれることが多く、また、技術練習の時など声をかけて指導してくださり、先生方のような援助ができるように頑張ろうと思ったから。

Q24学生の理由: 宗像先生に国試勉強や人としてあるべきことを教えて貰えて、患者さんに思いやりのある看護師になりたいという気持ちが高まったから。

Q24学生の理由: なにより教員がとても良かった。親切で親身になってくれる。

Q24学生の理由: 先生方の熱心なサポートのお陰で、モチベーションが上がったから。

17) Q23「まあまあ良かった」

Q24学生の理由: 良かった: 信頼できる友達ができただから。

Q24学生の理由: 多少休んでしまっても単位が取れること。

Q24学生の理由: 学校生活楽しかったから、意欲的になれる勉強ができただから。

Q24学生の理由: 良かった: 信頼できる友達ができただから。

Q24学生の理由: 多少休んでしまっても単位が取れること。

Q24-4. Q23の満足度判断理由は何か

17) Q23「まあまあ良かった」

Q24学生の理由: 学校生活楽しかったから、意欲的になれる勉強ができたから。

Q24学生の理由: 事務の方、他学科の先生、購買の方との交流があったことでメンタルを保て楽しく過ごせたが、辛辣な事を言う先生や差別する先生がいる事で「まあまあ良かった」と思うようになりました。

Q24学生の理由: 入学して、色んなことあり、勉強や実習が大変だし、あまり寝られない日があったりもして、「この学校に入学して良かったのか」「看護師に向いてるのか」など分からない時もあったけど...。
今は周りの環境に感謝してるし、看護師を目指して、国家試験に合格して看護師になって、大変だとは思いますが恩返ししていきたいと思っている。テストの点数が悪かったりして、成績が悪かったりするけど、絶対卒業して国家試験合格したい！
自分なりに一生懸命頑張りたいと思っています!!!

25) Q23「どちらとも言えない」

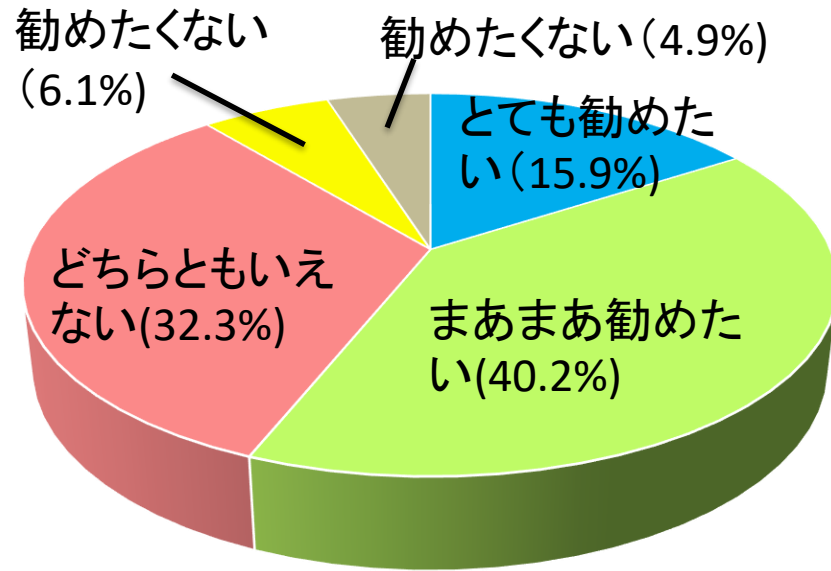
Q24学生の理由: モチベーションをわざと下げてる教員がいるから。

Q24学生の理由: 一部除き、優しく丁寧な教員が多いから。

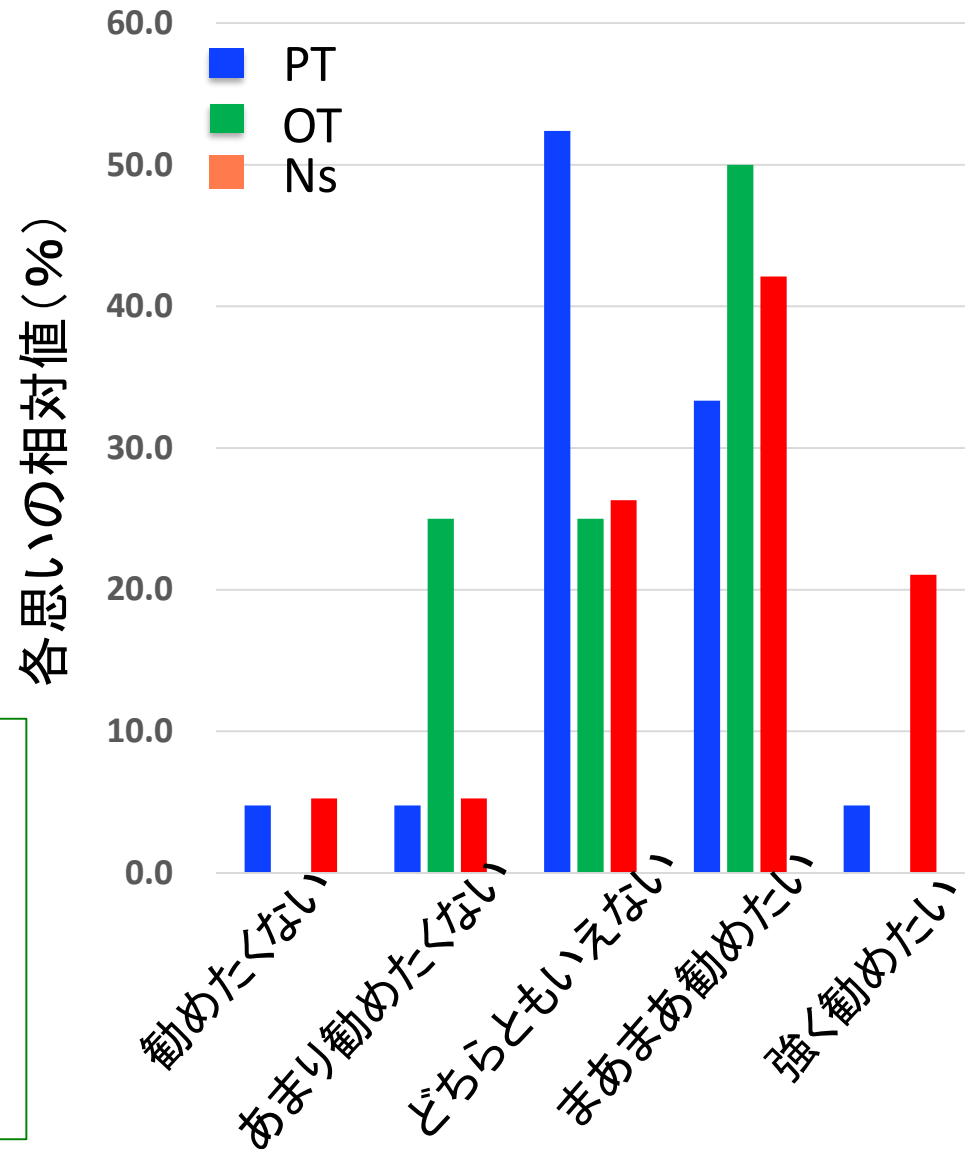
Q24学生の理由: 精神的苦痛を多く感じたため(授業、実習、国試含め)。

Q25. 兄弟姉妹・後輩・知人などに本校入学を勧めるか

3学科の平均



本校入学を勧めたい思いの比較



知り合いなどに本校入学を勧めたいと思う学生は、看護学科に多く、次いで作業療法学科、そして理学療法学科の順であった。この傾向は昨年度とほぼ同じだが、看護学科では、強く勧めたいと考える学生が徐々に増えてきた。Q24の具体的コメントからもそう判断される。

Q26-1. Q25の判断理由は何か

理学療法学科

- 1) Q25まあまあ勧めたい: Q26興味がない意味がないから。
- 2) Q25まあまあ勧めたい: Q26努力すれば報われるから。
- 3) Q25どちらともいいえない: Q26再試料が高いから。
- 4) Q25どちらともいいえない: Q26忙しくて遊ぶ機会がないから。
- 5) Q25あまり勧めたくない: Q26交通の便がよくないから。

作業療法学科

- 1) Q25まあまあ勧めたい: Q26大学がこういった環境なのか知らないから言えないことですが、個人的に少人数で落ち着いて学校生活を送ることができるからです。

看護学科

- 1) Q25強く勧めたい: Q26学内全体の雰囲気が良い。
- 2) Q25強く勧めたい: Q26自分が入ってよかったので紹介したい。
- 3) Q25強く勧めたい: Q26先生方や事務の方まで優しく丁寧な対応してくださる方が多いから。
- 4) Q25強く勧めたい: Q26他の看護学校に比べ、手厚いサポートがあると感じた。
- 5) Q25強く勧めたい: Q26他校と比べて楽しいから。
- 6) Q25強く勧めたい: Q26国試に向けて職員の方々がとっても応援してくれるから！
- 7) Q25強く勧めたい: Q26教職員のサポートが熱いから。
- 8) Q25まあまあ勧めたい: Q26成績が悪くても入れるから。そこからモチベーションを上げることができれば、資格を取得できる。可能性がたくさんある学校だと思う。
- 9) Q25まあまあ勧めたい: Q26良い教員もあまりお勧めできない教員もいる。
- 10) Q25まあまあ勧めたい: Q26教職員や事務員の方がいい人がいる。

Q26-2. Q25の判断理由は何か

看護学科(続き)

- 11) Q25まあまあ勧めたい: Q26興味がないと意味がないから。
- 12) Q25まあまあ勧めたい: Q26努力すれば報われる。
- 13) Q25まあまあ勧めたい: Q26いい先生などは揃っているから勧めるが、その人にあった教育方針があると思うので、無理強いはしない。
- 14) Q25まあまあ勧めたい: Q26学費が高い。
- 15) Q25まあまあ勧めたい: Q26学費が高い。担任になってほしくない教員がいる。
- 16) Q25どちらともいいえない: Q26学費が高いのでなんともいいえない。
- 17) Q25どちらともいいえない: Q26先生方からの差別があるから。それを感じられるのが実習の評価でつける先生方によって点数の差が出る。
- 18) Q25あまり勧めたくない: Q26外部教員の授業が難しすぎるため。
- 19) Q25絶対に勧めたくない: Q26精神的苦痛を多く感じたため。

Q27. 教育内容や学習環境で良かったこと

理学療法学科

1) 先生がわかりやすく教えてくれました。

作業療法学科

1) 見学実習に行けて良かった。

2) 実技などと絡むことが覚えやすくて良かったです。

3) グループワークで答えを導き出す講義が印象にも残って、良かったと感じました。

看護学科

1) 単位を落としても留年しないこと。

2) 教員が優しく教えてくれる。丁寧。

3) 他学科の教員に対してその学科に特化した分野を質問できること。

4) 教員が何事においても熱心に教えてくれる。わからないことはわかるまで何度も教えてくれる。

5) メンバーと話し合っががんばることができた。

6) 三上先生のおかげでたくさんの実習を組んでくれたこと、学べたことに感謝しています。

7) 分からない部分を聞くととても丁寧に教えてくれる。他の看護学校に行った友人の話を聞くとそれが当たり前でないことが分かり、疑問に思うことを理解できるまで教えてくださるところにとっても満足している。

8) 優しい教員が多いと思います。

9) 学内実習への切り替えの早さ、冷暖房がしっかりしている。

10) 他の学校と比べ、国試対策を本格的に3年生の4月から始められたことが良かった。

11) 担任の先生が身を削って勉強を教えてくれたおかげで国試が何とかなったこと。

12) 指導の仕方がわかりやすい教員がいて学内実習になっても病院実習じゃ学べないことを学べる。

13) 担任の先生が親身に話を聞いてくれたり分からないことを一緒に考えてくれたこと。

14) 国試勉強を先生が教えてくれたこと。

15) 教員が親身になって教えてくれた。

Q28-1. 学生からの本校への要望

理学療法学科

- 1) 学生証をキーにするなどして、図書室にいつでも自由に入出りできるようにしてほしい。
- 2) テストのスケジュールが空いている時と詰まっている時の差が大きすぎる。
- 3) PT・OTがメインに使う教室(演習室、基礎医学、治療室など)にもエアコンをつけて下さい。

作業療法学科(該当なし)

看護学科

- 1) 遅刻や、やらない生徒にもっと厳しくしてほしいです。
- 2) 外部の実習の先生がもっと詳しく教えてくれれば良いと思う。頭脳の差なのか、何を言ってるのかわからないときがあった。
- 3) 教育内容に入るのかは分かりませんが、1ヶ月の授業やテストのスケジュールが出るのがとても遅いので、1ヶ月前には分かるようにしてほしいです。外部講師の方や先生達の都合もあると思いますが、こちらアルバイトや家庭の都合もあるので早めに出してもらえると助かります。長期休みに入る時もスケジュールが分からないと旭川以外から来ている人達は困るので、他から来ている人たちの事も考えてほしいです。
- 4) 発言しやすい環境になったらいい。
- 5) 学内実習で圭一先生が入ってくださったように、他学科の先生などに協力して頂いたら、模擬患者のクオリティが上がって良いと思った。
- 6) 本校には看護学科のみならず、理学療法学科や作業療法学科があるため、多職種連携を学ぶ授業(演習含む)や実習の際は、他学科とも協力を行い、職種が異なる(であろう)生徒同士の考えなどを共有できる場があると良いと思いました。
- 7) 学内実習では先生が患者役になる、的確な意見やアドバイスがもらえて非常に勉強になりました。先生が患者役になる頻度が増えるといいなと思います。

Q28-2. 学生からの本校への要望

看護学科(続き)

- 8) 臨床実習において、看護師さんと教員またはインストラクターさんがついて下さり、患者さんの元へ向かうことができますが、看護師さんが1人の生徒についてくれているのにインストラクターさんも一緒に着いて行き見学をしていたり、時間の使い方が効率的でないことが多く、実習時間が過ぎてまで長い時間をかけて行動調整したにも関わらず、実施できない看護技術がたくさんありました。臨地実習では生徒のことを考えて本当に様々な準備などをして下さっているのは承知していますし、予定はあくまでも予定なので変更になる事もあるのは理解していますが、もう少し効率的に動ける部分があったと感じました。
- 9) コロナ禍で仕方のないことですが、私は病棟に行き、本来の実習をさせて頂きましたが、他グループでは病棟に行ったが課題がほとんどないところがありました。実習で眠れない日は当たり前かもしれませんが、実習記録の難易度が違うのにも関わらず、実習の評価基準は同じなのはどうかと思いました。
- 10) 教育指導の統一: 記録の書き方がそれぞれの教員で違うため、教えられた記録の書き方で書いても他の教員に注意されることが多く、看護について教えてもらう時間より記録の書き方の指導の時間が多かった。明らかに記録の書き方を間違えてない場合は、看護の考え方に重点を置いて指導して欲しい。
- 11) 1年生の頃から道德のような人間性、クラスのチーム力について学びたかった。
- 12) 指導がわかりづらい・威圧的な教員もいる。
- 13) 記録で時間を取られるより、心とか技術に力を入れた方が良い。
- 14) 図書館の前の学習室の照明を個々の机に取り付けたり、仕切りがある机を設置して欲しい。暖房や冷房をつけた時の匂いが気になるので、定期的に掃除して欲しい。掃除のおばさん達が使用していた布巾に雑菌が繁殖しているような臭いがして不潔なので、頻繁に変えて欲しい。勉強中に廊下を他学科の生徒が歩く時、声の大きさや歩く足音が気になるので、廊下は授業中のみ私語厳禁にして欲しい。

集計作業を終えるにあたって

今回で、学生アンケートのまとめは3回目になりました。毎年多くの学生さんにアンケートにご協力して頂き、心より感謝申し上げます。そして、皆さんからのご要望に応じて、できることから少しずつ改善を進めてまいりました。

このような取り組みが少しずつ本校の教育環境改善に繋がっていることは、学生の皆さんや教職員には日頃から少しずつ感じていることと存じます。過去3年間のアンケート結果の比較から、好ましい変化が徐々に反映されているように感じます。積極的に学生生活を送る学生さんが増えており、学習意欲の向上や学生の満足度が徐々に高まりつつあるという学生の皆さんの行動変容からも、その変化を伺い知ることができます。

今回の集計作業で一つ変更したことがございます。それは、学生の皆さんから出されている具体的コメント全てを掲載したことです。必ずしも歯切れよく回答できることばかりではありませんが、本校には取り組むべき問題が存在していることを、学生や教職員さらには保護者の皆様と共有させて頂きたいと考えたからです。そして、それらの解決を目標として年次計画を立て、少しでも前に向かって歩み続けられたらと願っているからです。

今回の変更で一つの矛盾が時折見受けられます。つまり、おおよその方向として望ましい結果としてグラフ化されていても、個々の学生さんからは「まだまだ不十分」とのご指摘がなされていることです。

次年度以降、この矛盾が一つずつ解決できるように対応してまいりますので、どうか皆様にも本校の教育内容や学習環境が年々改善されていくことをご確認いただければと存じます。

最後になりましたが、今年度は集計作業が大きく遅れ皆様にご迷惑をお掛けいたしましたことに対して、深くお詫び申し上げます。

令和4年7月29日

学校法人稲積学園北都保健福祉専門学校 理事長 稲積実佳子

校長 林 要喜知

本部長 稲積 圭一